



You Tube
録画中継は
こちらから



江渡 信貴
(自民公明クラブ)

ふるさと納税の寄附単価を 上げるための考えは

魅力的な返礼品の充実に努める

問 ふるさと納税の寄附単価を上げるために、どのような考えを持っているか。

答 ふるさと納税による自主財源の確保は重要な施策の一つと捉えています。豊かな農畜産物や観光資源がある本市のふるさと納税は、まだまだ伸び代があると考えており、機を捉えて市の魅力とふるさと納税のPRに努めています。令和8年度は寄附額の目標として3億円を掲げ、外部専門家からの助言、指導等により付加価値の高い商品づくりを行い、とわだ製品のブランド力向上に努めながら、市と寄附者をつなぐ中間事業者の業務を見直し、寄附額の増を図るとともに、寄附単価を上げていくことも重要な要素であるため、今後は寄附者がお得感を感じられる大容量の返礼品など、寄附単価の上昇につながる魅力的な返礼品の充実に努めていきたいと考えています。

問 にんにくや肉、アップルパイ、ヨーグルト等、当市の主要な返礼品は定期便との相性が非常によいと考えるが、定期便や5万円以上の高額返礼品の導入についての取組状況と今後の方針は。

答 定期便の返礼品は、食肉関係2事業者の7品、5万円以上の高額返礼品は全350品のうち59品となっています。昨年9月から出品した定期便の返礼品の例では、既に14件の寄附があるなど定期便や高額返礼品は、寄附単価の引上げが期待できることから、積極的に事業者へ働きかけ拡充を図っていききたいと考えています。

問 ふるさと納税は、11月から12月にかけて寄附が集中するため、この時期のマネジメントが年間の寄附額を左右すると考えるが、年末に向けた取組をどのように考えているか。

答 寄附受付ポータルサイト2社において有料広告を行い、需要の取り込みを図っています。



You Tube
録画中継は
こちらから



竹島 直樹
(柵の会)

市の地下水、^{こかつ}枯渇のおそれは

可能性は低いと推測

問 関東で井戸水が枯れて出なくなったとのニュースがあったが、市が取水する地下水が枯れるおそれは。

答 市の水源は昭和53年から取水を開始しており、芳川原浄水場中央監視室で毎日記録している直近5年間の管理日報では、水位低下は起きていないことを確認しているため、地下水の枯渇の可能性は低いものと推測されます。また、突発的な事故や老朽化による施設の改修事業の際に必要な代替井戸の確保のために、令和7年度に実施した水源調査により、同等の水量を見込める新たな水源を確認できたことから、これらを活用することで水不足のリスクは軽減できると考えています。

問 保育料無償化事業の財源に国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用するようだが、この交付金は、物価高騰に苦しむ全市民への支援に活用すべきと考える。他市では、県の交付金を活用し、保育料無償化事業を行う自治体もあるようだが、当市が国の交付金を活用することとした理由は。

答 市では、持続可能な財政運営を行うため、国の補助金を積極的に活用するとともに、限られた財源を真に必要な事業に重点配分するという考えの下、予算編成に取り組んでいます。保育料無償化事業については、国交付金の推奨メニューにあることから、一部を活用し事業を実施することとして予算計上していますが、その後、県より保育料無償化が活用事業として推奨されている「令和8年度学校給食費無償化等子育て支援市町村交付金」の拡充案が示されたことから、詳細が分かり次第、県交付金も財源の一部に充当したいと考えています。